滿州日報

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議
從減 每張四百文

札幌麥酒 四打入 全 同九圓八十錢 同二十二圓五十錢
蜂印香竄葡萄酒
桃人形ミルク 全 同九圓五十錢 同十二圓五十錢
澤鶴 サッポロビール 正味四斗四升入 十七圓 九圓七十錢 (宅合名會社調査)
元[illegible]九百[illegible]六吊八百

告示

關東總督府 陸軍大將男爵 大島義昌

出示曉諭事照得橫濱正金銀行向於上海天津牛莊等埠專爲利便交易起見發行銀元鈔票所有納欵諸凡交易均用該票無異銀元通用極便商賈爲之暢通實於商務有益已爲人所共知也及至滿洲前爲兵燹之區我日本軍隊使用軍票是以該銀行暫行緩發者也日俄和平滿洲一帶全歸安靖商務亦將見其膺日之興旺我軍隊隨即逐漸撤退所發軍票亦應收回於是橫濱正金銀行玆奉我日本政府允准一面再行發票一面置銀備換以便商務而資滿洲貿易之發達爲此示仰各色旗民紳商等一体知悉爾等嗣後即將該銀行所發鈔票視同軍票均須通用勿得懷存猜疑可也倘有奸譎之徒謠言惑衆碍難通用以博漁利者一經查出立即從嚴懲辦決不寬貸各宜遵照無違特示

明治三十九年一月

告示

橫濱正金銀行ハ從來上海天津牛莊等ニ於テ諸般取引ノ便利ノ爲メ銀ト引換ヘキ一覽拂手形ヲ發行シ來リシカ右ハ各種ノ公納其他一般商業上銀貨同樣ニ使用セラレ流通圓滑ニシテ金融ノ距通ニ資スル處多大ナリシハ業ニ已ニ普ネク知ル所ナリ曩キニ滿洲ノ地戰爭ノ區トナリシニ際シ日本軍隊ハ主トシテ軍用手票ヲ使用セシヲ以テ橫濱正金銀行牛莊支店ニテハ一時一覽拂手形ノ發行ヲ見合ハセシモ今ヤ平和回復シ滿洲ハ玆ニ全ク安靖ニ歸シ商務モ亦正ニ舊日ノ旺盛ヲ見ントス而シテ漸次軍隊ノ裁撤セラルヽコトニ從ヒ軍用手票モ亦之ト伴フテ交換回収セラルヘキヲ以テ橫濱正金銀行牛莊支店ハ再ヒ一覽拂手形ヲ發行シ舊ノ如ク商務ノ便ニ供シ益々滿洲貿易ノ發達ニ資スル所アラントス右一覽拂手形ハ日本政府ノ認許ヲ得テ發行シ銀貨ヲ準備シ隨時交換ノ用ニスルモノナルヲ以テ汝等人民ハ之ヲ信用シ軍用手票ト同一ニ公私一般ノ取引ニ受授通用シテ毫モ疑アルヘカラス若シ夫レ奸譎ノ徒妄ニ浮說ヲ流布シ流通ヲ妨害シ以テ利ヲ博セントスルモノアラハ立トコロニ嚴罰ニ處シテ決シテ假借セサルヘシ各遵奉シテ違フ勿レ特ニ示ス

明治三十九年一月

關東總督男爵 大島義昌

三井洋行

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請親臨是荷者

●精製白砂糖新入荷物あり

倉庫部

今回倉庫所在地（青堆子精搗場上陸り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候（電話百二十八番）

宅合名會社

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒漬鹽印并一切雜貨其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿紗布火柴絲布絨衣帶標布手巾花巾雨衣洋紗子洋胰鋪表貨物俱全而價値尤格外從廉且貴客一賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請屏臨爲幸

總司理人 田中賴之助謹白

○東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並匯兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二隻棧房地方寬大凡泊輪船一船裝卸貨物極爲利便圓貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一隻名域多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷

總司理人 葉亮卿謹白

○東永茂

機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之 正理事潘玉田 副理事金德魁 設在營口西北街路南

○西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外 士商賜顧者請認明招牌決不致悞 本主人敬啓

○仁裕號

保裝運各幇火輪船生意粜賣各幇洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北警乙第十三號

○恒有長

本號開設在西大廟街路南第十一號廣耜雜貨一應俱全價値格外從廉克己并另設銀爐包餐錦舖以應急需久爲 中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

○元茂盛

油坊買賣元荳荳油荳餅雜色粮石以及代客購辦雜貨布疋一統發行裝運沙船輪船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北警乙第四十九號

○代代米烟公司

本行專售 日本官造紙烟 鼎象牌（新造）櫻花牌（楓葉）百合花牌（利利）均已馳名內外玆特運上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆沽來福）清香撲鼻佳美適口而價値極廉諸君欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓、
▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
橫濱 神戶 東京 長崎 大阪
倫敦 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺

電話 十番 支配人室
百八番 事務室

橫濱正金銀行牛莊支店

淸酒東自慢、白鹿 朝日ビール 孔雀印平野水、箱根水 上等石炭及撫順炭

以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也

松茂洋行商業部
河岸通（電話五十二番）

滿洲日報各地賣捌所 滿洲日報廣告取次所

大連市磯岐町三百三十八號 日華運輸公司
大連市磐城町四十九番地 岡野新聞舖
奉天大南門內景祐宮胡同 全泰號
遼陽 遼陽俱樂部 谷口今朝太郎

森病院

一診察 自午前八時 至正午十二時 自午後一時 至午後五時
一往診 午後三時より

△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
鉄道の入院を許す（取扱金任意）

院主 森 [illegible]
醫長 鈴木昌平
營口永世街（電話一五五番）

大日本政府特定 官製口付紙捲煙草 滿洲一手輸入發賣

江副洋行
營口永世街

○和泉洋行

本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、襪子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價値格外從廉克己、凡 中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、

大阪府堺市熊野町 藤原謹啓

○田中牛莊分莊

啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪九三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉 賜顧者請光臨本舖面閱是幸

田中牛莊分莊謹啓

材木販賣 荒物

秋田洋行

營口永世街第一八四號平野町
本店 下關 秋田寅之輔商店

●辭東申榮行

小林門平

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克己凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧局急之需 本主人啓

米國製 白麵發賣

大連市羽前町千八番
英組大連支店

飯塚工程局材料部

營口元神廟前（電話百三十五番）

弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

The Manchuria Daily Report Office. Newchwang.
Telephone No. 29.
發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社 (電話二九番)

東京電報

●載澤公一行の出發期 出洋大臣載澤公一行は愈々來る十四日橫濱出帆渡米の途に就かるべし

●明年度豫算案の通過 本日衆議院本會議に於て明年度豫算案に關し討議する所あり大多數を以て該案全部無事可決せられたり
(以上二月十日發電)

●國債基金と外交社會 國際基金法案衆議院通過の結果外交社會に於ては資本共通の道開けたりとて大に歡迎しつゝあり

●三十九年度豫算可決續報 政府提出の三十九年度歲出入不足豫算案は臨時事件費豫備費に於て五百萬圓削減の外總べて原案通り可決濠洲線航路補助は二個年に短縮警視廳存續及び建築費共原案通り可決せり

●下ノ關の獨乙領事館 獨乙は領事館を下ノ關に設置せんとの計畫中也

●藏相の內債募集協議 阪谷藏相には京坂の重もなる銀行家を招き十三日頃內債募集に關する內議を爲す筈

●衆院議の休會 衆議員は十六日迄休會することを決議せり

●地方官會議の招集 地方官會議は來る十九日招集せらるべし

●英親王携帶の勳章 アーサー、コンノート親王殿下は山縣大山東鄕諸將へも賜はるべき勳章を御携帶遊はさるべき筈なり

●末松男の神戶着 末松男には十日神戶に歸着せり

●大島總督の鄕里著 大島關東總督には本日鄕里山口に着せり

●韓國駐在の憲兵 韓國駐在の憲兵は軍事警察の外統監の指揮を受けて行政司法警察をも司る

●京城の英國總領事 京城の英國公使館は閉鎖し代理公使ニーボン總領事として駐在すべし

●露國の滿洲不撤兵說 露公使は滿洲內地の擾亂未だ平定せざるを口實として撤兵を肯んぜずといふ
(以上二月十一日發電)

北京電報

●北淸撤兵に關する各國會議 昨日各關係國公使は北淸撤兵問題に關し協議會を開きしも未だ結着を見るに至らずして散會せり然れども北京天津を除き其他悉く撤兵するに至るべしとの傳說は遠からず事實として現はるべし
(二月十二日發電)

倫敦電報

●米國新艦設計一班 米國新造戰艦ノースカロリナ及びミシガンの設計に據れば兩艦共十二インチ砲十二門を備へ艦側防禦の外には他に副砲門を備へさる筈なり

●巴里とモロッコ問題 巴里に於て發表されたるアルジエリア電報の報ずる所左の如しモロッコ問題は危機に迫れり列國は獨國代表者の沈默窺ふべからざるものあるに反し佛國代表者の公言して隱す所なき態度に同情を表せり列國はモロッコの警察權を佛國に委するを以てモロッコ問題唯一の解決なりと主張せり

●殖民地に於ける日探 倫敦クロニクル新聞は二名の日本人の行李中よりシドニー殖民地海岸防禦秘密地圖を發見せし旨掲載して人心を驚かせり當局大臣ブレーフォルド氏は之れに關する調査に從事せり
(以上二月九日發電)

●英領土人警吏襲擊 英領ナタル、リチモンドに於て十四名の警吏が人頭稅を徵收しつゝありしに武裝せる土人の襲擊に遭へ監督官及び兵卒は殺害され六人は行衛不明となれり軍隊は同地に向つて出發せり

●伯林とモロッコ會議 伯林に於て發表されたるアルジエリア發の電報に據ればモロッコ會議は圓滿に結了すべき見込ありしも佛國が突然警察權問題の即決を要求せるを以て事態一變せり然れども獨國はモロッコの全沿岸を佛化して以て佛領亞弗利加とモロッコを聯合せしむるが如きことを承諾せざるべしと云ふ

●米國議會の關稅修正 米國議會は非律賓群島の關稅修正案を通過し歐州製の綿布輸入稅を増加せり

●密偵事件の無根據 ロンドンクロニクル新聞はメルボルン在留の同社通信員に通告して曰く當局大臣ブレーフォルド氏は調査の結果日本人の密偵事件は全く根據なきことを確めたりと
(以上二月十日發電)

雜報

●淸國の對露提議 淸國の對露提議の內容を聞くに左の如し
一、日淸協約にて露國のみを條件とせる鐵道守備兵を撤退する事
一、滿洲軍の撤兵期を早むる事
一、露國と吉林將軍及び黑龍江將軍との間に於ける鑛山鐵道等に關する條約を廢棄する事、但外務部の承認を經ざるものに限る(聞く此の種の條約甚だ多しと)
一、軍用鐵道同電線の撤退及び軍隊の占領せる公私財產を淸國に還付する事
一、黑龍江を開放する事
一、戰時當然の結果に非ざる損害、例令ば哈賓暴動に因れる如き損害賠償を要求する事
一、吉林長春及び奉天新民屯兩鐵道に關する淸露間共同經營を全然廢止する事
一、其他蒙古問題に於て庫倫、喀克圖間の電線を淸國に回收する事
一、喀克圖條約を改正して露國より侵入せる土地を取戾し淸露疆界を明白ならしむる事

●海相の大英斷 海軍部內の淘汰は大勢の然らしむ所にして海軍の人材は主として佐官中に網羅せちるゝに拘らず故參の大中少將依然其職を去らず後進者の進路を閉塞するの感ありたるも之が淘汰は非常の困難にして山本前海相の如きも種々の情實上終に決行し得ざりしに新任の齋藤大臣、加藤次官、小倉人事局長等が此困難を排して淘汰を斷行したるは大英斷なりといふを得べく新海相は今回の鎭守府司令長官の更迭を手始めとし今後ドシ／＼改革を行ふ決心なりといへば海軍部內は遠からず其面目を一新するに至るならんか、それにつけても陸軍は海軍に比し一層情實纏綿の姿なるが之に處する寺內陸相の手腕如何は今後刮目して見るべきものなるべし

●韓國米課稅決定 韓國米輸入稅撤廢問題に關し大藏外務當局者に於て種々講究する處ありしが右は最惠國條款の存する限り英領印度、佛領印度より輸入する暹羅米に對する關係より見るも特に韓國米に限り廢止するを得ず又戾稅の便法を取ることも條約の精神に違反するといふの理由を以て結局撤廢せざることに決定したる由而して該輸入稅の廢止よりも寧ろ韓國に於ける輸出稅を廢止する方最も時機に適したる處置なりといふべし

●凶作地救恤協議會 東北三縣救恤協議會は此程日本倶樂部內に開會委員長富田鐵之助、新聞通信代表者橫井時雄、池邊吉太郎、嶋田三郎、大岡育造、野崎廣太、箕浦勝人の諸氏出席協議の末左の如く決定せり
一、從來新聞通信社代表者は橫井池邊の兩氏なりしが今回更に箕浦野崎大岡嶋田田四氏を加へ六名とすること
一、各地の新聞社に對しては前記六氏より盡力に贊成を請ふこと
一、富豪者に對しては一面書面を以て依賴し尙親しく依賴して救恤金を募集すること

●林大使歸朝期 林駐英大使は愈三月十日頃を以て賜暇歸朝の途に就くことに決定したり同大使の駐英公使として倫敦に赴任したるは去る三十三年にして七箇年間倫敦に在りて我が國威の發揚に方め前後二回の日英同盟は勿論兩國親交上に於て同大使の貢獻する所少からず今や外交界小康の姿となりたる折柄內閣も更迭して今後外交の方針に付き打合せを要すべき事も少からざるより此機を利用して賜暇歸朝となりたるものにて東京滯在は一箇月位なりと

●三笠引揚工事 軍艦三笠は過般引揚に際し端なくも一尺四方の破損孔を發見したるため引揚げを中止し其後專ら該破孔に對する防水工事中なりしが昨今大に進捗したれば近日の高潮を待ち更に引揚げに着手する筈なりと

●露國元帥來遊期 露國より在長崎なる露人の許に達したる報道に據れば同國海軍元帥アレキシス親王殿下は來三月陽春の候を以て本邦に御來遊あらせらるゝ由にて近々我政府に對する正式の通知あるべしと

●乃木大將の徹夜 凱旋後の乃木大將は何れの歡迎會にも出席を辭退し多くは自邸に引籠勝なるがセメては戰歿將士の遺族を慰藉するの一端にもなるべきかとて日夜戰死者墓表揮毫の需に應じ中には百里を遠しとせずして來り需むるものさへあるより昨今大將は之がために忙殺せられ殆ど夜を徹する有樣なりといふ

●治安警察法改正請願 治安警察法第五條の改正に就ては過日來今井うた子外數名の女子主として運動中なりしが愈々有志婦人二百三十名餘の連署を以て此程江原素六氏の紹介に依り衆議院に同條の改正請願書を提出したり

●名刀と大山元帥 舊水戶藩主德川賴[illegible]侯は日露會戰に就き大山滿洲軍總司令官が絕大の勳功を樹てしに就き敬意を表せんが爲め此程烈公が精神を籠めて自ら鍛へたる名刀に鄭重なる書狀か附して贈りたる由

●同仁會と載澤公 淸韓醫術改善を目的とせる同仁會は今回來朝の載澤殿下を名譽推戴員とし同會最高徽章を奉呈せり

●阪谷藏相の危險 阪谷藏相は去る一日午前十時頃自宅より衆議院へ赴く途中神田猿樂町に於て後より疾驅し來れる街鐵の電車に馬車後部を突かれ馬車は將に轉覆せんとし非常の危險なりしも幸ひに微傷だも負はずして登院する事を得たり

●軍票雜爼

▲軍票騰貴の理由 金票一圓に對する九十錢の軍票か九十六錢に騰貴し更に又た九十八錢に騰貴したるは寧ろ一般の喫驚する所なりしか今ま其の騰貴の理由に對し某銀行家の語る所は左の如し

抑も〻は票〻貴を代表する者にして當然銀質也、從て銀塊の騰落に依りて其の價格を上下する者とす回顧すれば政府に於て軍票を發行せし當時は今日に對照すれば銀相場頗る下位に在り二十七片前後を往來せり金票一圓に對する軍票九十錢の價格は即ち此の時の金銀比價より算出せられたる相場なりとす換言すれば當時の金銀比價より割り出せば軍票即ち銀票の一圓は金票九十錢に相當せしなり固より金票に對する打步にも非ず將た又た割引にも非らざりし夫れ既に打步にも非ず割引にも非ず金票に對する相當價格也故に爾來若し銀に於て騰貴せば金票と軍票との差額は當然接近する也、而して實際を觀れば復た實に銀の騰貴を現はせるを知る之に依りて見れば軍票は今日を待たす其の銀騰貴と同時に即ち今日以前に於て早く既に騰貴せざる可らざりしなり然るも依然として今日迄も九十錢の下位に在りたる者は抑も別に原因あり原因とは何ぞや曰く抑も軍票は前述せし如く銀貨を代表する者にて當然銀質を以て觀せさる可らさる者となす、然り而して政府は何故なるか軍票に附するに金銀の兩質を以てせり、政府の調製せし高低相場表なる者は即ち此の軍票を金銀の兩性に使用す可き唯一の道具にて政府は實に此の高低相場表に依りて其發行以來常に軍票を金銀の兩面に使用せり夫れ然り於是乎當然銀質を以て觀る可き軍票も單に銀質を以て觀る可らさるに至れり既に銀質を以て觀る可らず銀の騰貴に依りて價格を上下する能はさるは當然に非すや蓋し斯の軍票に附せし金銀の兩性は一見巧妙に似て實は軍票の騰貴を阻害せしものとす近頃に於て政府も大に覺る所あり終に高低相場表を除去せり於是軍票は自然の性質に歸りて全然銀質の者と爲れり近頃銀相場の騰貴と共に軍票の益々騰貴するは此の本性の回復甚だ興りて力ある也、軍票に附するに金銀の兩性を以てせしの一事か軍票の騰貴に甚だ障害を與へたるは大略前に之を述ふる所の如しと雖も更に一事の騰貴を妨げ下落に導きたるものあり何んぞや軍票と金票との相場の相違を觀て世間一般輕卒にも軍票の金票に對する打步なりと誤解し割引なりと誤信したるに在り前にも之を述べしが如く金票一圓に對する軍票の九十錢は打步にもあらず將た割引にもあらず即ち金銀の比價より算出せし當時の金票に對する軍票の相當價格なり然かも世間一般に輕卒にも打步の如く又た割引の如く速斷したるの結果は人氣に非常の惡感を與へ實物貨幣たる銀貨の騰落を度外に附し寧ろ人氣に依りて其の相場を左右せらるゝの變態を現出し遂に延びて眞正なる打步を觀るに至りたり故に當時に於ては軍票は唯に金票に對して差額ありたるのみならず又た銀貨に對しても差額を有したる也

今日軍票か本性を恢復したると共に人氣の惡感も霧消し軍票と銀貨と其の間復た差額非るを觀るに至りしは寔に國家の爲に喜ふへき事とす以上述へたる所の軍票の金銀兩性の倶有併に金票に對する世間一般の打步又は割引等の誤解は軍票か今日迄で悲境に沈淪したる最大の原因なるか尙ほ一つ軍票の信用の傷け其の流通を妨げたる者あり云ふ迄もあらず露國の妨害政策に基ける流言飛語即ち軍票に對する信用の中傷に在り其の說明の如き蓋し既に世間一般の熟知せる所たるへく復た贅するの要あらさるへし之を要するに軍票は今日迄は實に以上の三大原因に依りて其の本性を完全に發揮する能はさりしも今や是等の障碍物は全然其形を失ひ敢て又た何物の本性の發揮を妨る者非るに至りたり最近に於て一度二度其價格を騰貴せしは蓋し此の邊の事情に出でたるや疑ひなし更に將來に於て銀相場の騰貴を觀るあらば三度四度其の價を高め終には金票に對し上位に位するに至る無きも亦た保すへからず試に思へば金票一圓に對する軍票九十錢の價格は二十七片臺の相場價格に非りしか而して今日は三十七片前後となりて九十八錢に騰貴したり將來更に九十九錢となり一圓なりと進んで一圓以上となるもあり得へからさるの事にあらす而して一圓以上に騰貴したるの時は金票に對し上位に位するの時に非すや云々

▲軍票と一覽拂手形 牛莊正金支店に於て一覽拂手形を發行し以て軍票と交換し漸次其の回收を企つとは兼て世上に噂させられたる所なるが今ま正金支店に就て聞く所に依れば一覽拂手形は一圓五圓十圓の三種に區分せられ大坂の造幣局に於て調製中に在りと云ふ但し造幣局も近頃は國庫債券や貯蓄債券の製造に頗る多忙を極め居る者と見へ一覽拂手形は其の見本だに未だ到着せずとの事なり中村支配人の談に依れば一覽拂手形の到着したる上は時價を以て軍票と交換し漸次軍票を滿洲の市場より回收する筈なりと云々

▲軍票の回收高 牛莊正金支店に於て買入れの姿に於て去る一月以來今日に至る迄に軍票を回收せし總高は約二十万圓なりと云ふ因に奉天其他の正金に於ても同樣の回收あるは勿論なるも其の數額は營口支店に於ては確實に計算する能はずと云ふ從て此には記す可らさるも聞知し次第報道すべし

▲軍票又々騰貴 軍票が九十八錢に騰貴せしは最近の事實なるが聞く所に依れば一二日前より更に九十九錢に騰貴し金票一圓に對し僅に一錢の差額を有するに過ぎざる事となれりと云ふ此の好調を以てせば一圓に達し更に一圓以上に及ぶも近々の中に在るべし

●一昨日の紀元節祝會 豫報の如く一昨十一日は神武天皇即位二千五百六十七次の祝日にして殊に平和克復後始めての紀元節なれば當軍政署に於ては一は此最も光輝ある佳辰を祝せん爲め一は日淸兩國の懇親を敦ふせん爲め同日午後六時より西營口鳳鳴茶園に於て盛大なる祝會を開かれたり先つ會場の入口には旭旗を交叉し萬端の裝飾遺憾なく整へられ場內幾十の卓子には酒肴を備へて各自飲み且つ食ふに任かせ殊に喰ひ黨甘黨の爲めには別に饂飩店汁粉店等を設けたり式始まるや與倉長官起て兩陛下の爲め萬歲を三唱し一同之に和し酒間餘興數番あり一同歡を盡くして退散せるは十一時頃なり當日參會せるは在留日淸兩國人の重もなる者三百餘名にして營口第一の劇場と稱へられたる鳳鳴茶園も立錐の餘地無き迄に塡咽し近來稀れに見る所の盛會なりき

●滿洲通信社の組合加入者 滿洲通信社は業務擴張以來一方に於ては東京より內地に於ける重大の出來事を電報にて通信せしめ更に他の一方に於ては滿洲に於ける緊急重大の出來事を東京に同く電報を以て通信しつゝあるが今日迄に其の組合に加入し一面其の東京よりの電報の回送を受け一面通信社の事業に資しつゝあるは都合二十三名なりと云ふ

大車
▲上行車時刻表
▲下行車時刻表
一野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表 大連奉天間下り列車
上り列車
天一 營口地方

社告

東北凶作地窮民救恤義捐金募集

東北三縣の凶作は國家近來の大慘事たり之を天保年間の大饑饉に比するに優るも讓らず各官廳及び地方有志は夙夜救濟の道を講ずと雖も窮狀日に益〻甚しく趨に地方自治機關の之が爲めに停止し國民教育の之が爲めに沮滯せるのみならず幾十萬の窮民坐して死を竢つ能はず山に木皮を拾ひ野に草根を掘り僅に露命を繫ぐに至る而も今や時冬天に會し饑寒交々至りて復た食と衣とを得るの道無く父母妻子東西に流離して乞丐と變じ餓莩路に横はるの慘劇將に臻らんとす是に於てか我内地に於ては東北三縣の舊藩主貴衆兩院議員等胥謀り東北三縣救恤會なるものを起し以て是等窮民振恤の方法を講じ在京各新聞通信社亦其擧を贊して均しく義捐金募集に着手せり我社固と涓埃の力敢て當るに足らずと雖も其慘狀を聞くや既に久しく同情の念轉々巳む能はず遂に聲援を我同業者に致し以て幾多窮民が焦眉の急を救はんことを期す江湖の君子庶くば本社の微意を諒とし應分の義資を投ぜられんことを其規定左の如し

一、義捐金額は一人拾錢以上とす
一、受付期限は二月二十八日迄とす
一、義捐金は直に本社に送附せられたし
一、本社が受付たる義捐金は毎日正金銀行に保管預入を爲すべし
一、期限後は之を一纒めとし東北三縣救恤會に送附し其配分方を托すべし
一、義捐者人名は本紙廣告欄に掲載し受領證に代ふ

明治三十九年二月七日

滿洲日報社

雜報

●奉天近況

▲近頃歸客の視察の談に曰く最近の調査に依れば奉天の旅館料理屋飲食店の總數は五十一軒に居留民は總体に於て千三四百人あり而して就中七百余人は實に婦人の占むる所と云ふ視察者は月に增加の趨勢あり最近の番號二千五百余號に達せるを觀る

▲物資は何品も格別不足を覺るは非ず殊に米、酒及び鑵詰品等は視察者が視察の幸便を以て自携帶し販賣するを以て始終潤澤也但し日用の小品例へば海苔の如き或は箸の如きは余り世人の注目に係らさるを以て時に甚だ拂底を來し從ふて相場も寧ろ驚くべき高價に上る事あり現に箸の如き昨今の價格は一把實に四十八錢の高値に在り試に之を營口に見んか僅に十二錢也更に大連に至れば十錢也即ち營口の相場に比較すれば全然四倍にて大連の相場に比較すれば約其の五倍に當る其他尙は味噌の如き酢の如き目下甚だ品薄なりと聞けり

▲斯の如く物資は日用の小物品三四種を除く外諸品概して潤澤の方なるも商況は一般に良好にして復た營口の比に非らさるは人氣の活潑なるが爲なるべし蓋し奉天今日の景氣は良好の絶頂と觀て可ならん面白きは視察者往々其の携帶品を投げ賣りするにあり而して投げ賣りの動機は概して料理屋の勘定等に關係す視察者に於て花柳の巷に出入し遂に其の勘定に窮し携帶の諸品を二足三文に投げ賣りする昔往々にして之れあるより今は敏き需用者の中には靜に投げ賣りを待ちて買入取らんと構ふ者あるに至れりと云ふ或商品が時に其の相場を非常に下落し世間をして理由の那邊に在るかと疑はしむる事などあるは大抵此の投げ賣りの結果也

▲今日の奉天は何商店も皆な相應に繁昌を見つゝあるが就中繁昌の隨一は例に依りて料理店也今日奉天に於ける料理屋の日々の收入は中々馬鹿にせられたるものに非ず而して料理屋のお客は目下の所軍人五分にして商人も亦た五分也即ち軍人と商人と恰も半々也料理屋仲間に於ける奉天の將來に對する觀察は二派に分れあるを見る甲說を唱ふるに一派は軍隊の撤退後を以て大に奉天を悲觀し乙說を唱ふる一派は鐵道の連絡地たるを以て其の將來を頗る有望に觀察す故に甲說を唱ふる者は上景氣の今日に當り早く鐵嶺昌圖開原等の新開地に着目し乙說を信ずる者は益々家屋を修飾し奉天に於て永久の繁昌を見んと料りつゝあり抑も最後の勝利を獲取するは果して何れの料理屋なるべきか

▲鴨綠江軍が引上げて奉天に凱旋を待ちつゝありたるは世間の夙に承知せる所なるが一月廿七日を以て鴨綠江軍は全部內地に其の引上げを了し今日は更に他の三ヶ師團全く奉天に於て凱旋を待つゝあり云々

●露國文武官の惡事

露國會計檢查院長は開戰の當時韓國に駐在したる露國公使パヴロフ氏及び上海駐在露國軍事代表者デシノ將軍か官金を消費したる確證ありとて最高裁判所に起訴したりパヴロフ氏の罪跡は開戰の當時及び旅順開城の際と日本海海戰の際にデシノ將軍と共謀して官金を私し日本海海戰の時には船舶石炭等を不法の高價に買入れ平和克復後自己の收益と爲るの手段を施し置き又旅順開城の時にはパヴロフは八千人の俘虜還送を掌り露國政府より俘虜一人の輸送費千馬克の割合を以て八百萬馬克を取出し一面獨逸汽船に對し一人三百馬克の割合を以て輸送せしめたり又平和克復後獨逸汽船會社との間に爲したる日本より阿德沙へ送還の四萬人の輸送契約は現に一人三百五十馬克に爲り居るを矢張千馬克の割合を以て計算書を作成したるなり斯くて數次に竊取したる金額は莫大のものにして露國新聞紙は嘗てを摘發したる事あるも政府は何時も國家の體面上今日迄秘密に附し來りたるなり去れは今之を公にせる以上は尙他にも意外の失態事件暴露するに至るへしと

玉島少女

其二　　壽山

親なしの獨身で、今は高等學校に勤めて御居でなさるが、御前が嫁つて呉れると、すぐ家を持つて、氣樂に暮して行かれるとのこと。そんな良い緣はもうありやしませんよと叔母樣は何うしても取極めたい願望や私とて何の不承知を申しませう。人に知られずにはかなく散るべき無名の草花、それが嬉しく摘まれるのですもの。結婚して、家を持ちましたのが、牛込の二十騎町、二階建の見晴しの好い家で、庭にも西洋の草花の花壇をつくる程の地面はありました。それに、好ましいのは、此町の靜かなことで、音と言つては遠くに聞ゆる傳の響き、柴垣から洩れる琴の音位。私は夫の不在つれ〴〵を獨逸語の研究に費して、レナウの敍情詩も字典を引けば大方解る位になつて參りました、それに、夫は大の文學好き、私も學校に居ります頃から、紅葉山人のものは殊に好きで、お粂、お宮を始め、あらゆるものを能く讀んで知つて居りましたが、中でも朧舟のお藤、あれを何んなに可愛想に思つたでせう。男思ひの病中に、髮を取上げて紅さした其女らしい心根、私は讀む度毎にいつも同情の涙に暮れました。ある日、夫に話しますと、夫が申しますのには、成程出來て居ると私も感心しては居るが何ふもお藤の性格が少し不明だ。あれだけの事で病氣になると言ふのも少し不自然なのだ、思ひ死に死ぬとは餘りに古風。新らしい西洋のものを讀んだ目には少し不滿足である。—とから言われた。いゝえそんな事はありませぬ、女と申す者は、皆なあんなに弱い脆い者で、便る所を失ふと皆んな蔦のやうに枯れて了ふのが慣ひと申しても、夫は何ふしても合點しませんやうでした。女の心、實に弱いのは女の心、女でなければこの心が本當に解らぬのでせうと思つて私は其話を止めて了ひました。

兎に角、かういふ風で、私の家庭は至極圓滿、一年は丸で、夢のやうに過ぎて了ひました、夫は平生暇さへあると、新らしい歐洲の作者の詩や小說の話しを聞かせて下さるので、解らぬなりにも、新らしい思想煩悶をも知りましたし、新らしい派の戯曲なども幾つとなく諳んじました、何ふも私達には、其思想が烈し過ぎたり、其感情が强過ぎたりして、レナウやハイネなどから比べると、强い酒でも戴いたやうな氣が致しますけれど、何と申せ世界のすぐれた詩人達の煩悶やら思想やらですもの、其光彩の華々しいのには、いつも眩惑さるゝやうな心地が致すのが常でした。夫が常に其物語りを爲て下さるのは、二階の書齋、大抵は安樂椅子に凭り掛つて、右の肱を肱臺に載せ、書籍を左の手に開いて、緩かな調子で話して下さる、私は唐机の前に坐つて、兩手をてやと膝の上に置いて、ちつとして聞いて居ります。で、段々話が佳境に進むで參りますと、平生は左程流暢ではない夫の言葉にも、神が乘り移つたやうに熱が加つて、頰のあたりに紅なる色が潮のやうに漲ぎつて來る。私も面白いので、思はず膝を乘り出して聞く。一室には暫時美の神が臨むのでありました。で、話しが濟むと、ザツト物語りの批評をして下さる、私は婢に命じて、茶と菓子とを取寄せて進める。其時のさまが今でも眼に見ゆるやうな心地が爲ます。

夫はかういふ風ですから、主義も有つて居りますれば、思想も豐富でありました。隨て私は一面師としての尊敬をも拂つて居りましたので、他の學校友達が、紳商、官吏に嫁いで、華々しい榮華を盡して居りますのを見ましても、更らに美しいとも妬ましいとも思つた事は御座いませず、お恥かしい事ながら、私ほど卓れた夫を有つた者は無いと信じて居りました。私の性質の蔦のやうに弱いのを忘れては下さるな。二年目の春に長女が產れました。

女と申すものは。兒には旦の無いもので御座いますので、それが生れますと、私の家庭は確かに一變化を生じました。今迄は琴の音、一音と申しては夫位のもの、寧ろ夫の不在は淋し過ぎると考へましたものを、長女が生れてからは、其の泣聲が第一に氣に懸りまして、もう今迄のやうにうか〳〵と小說を讀んだり、何か致しては居られないやうになりました、つまり空想ばかり、で成立つた私の家庭、そこに實際と申す恐ろしい敵が襲つて參りましたので。

廣告

東北凶作地窮民義捐者芳名

一銀十圓	營口	松倉善家
一仝五圓	同	田村忠一
一仝十五圓	同平岡組	平岡佳吉
一仝一圓	同	島內俊一
一仝一圓	同	山田長造
一仝一圓	同	遊部茂太郎
一仝一圓	同	永田留吉
一仝一圓	同	濱田新太
一仝十圓	同平岡公司	佐藤竹治
一仝五圓	同	佐々木脉
一仝一圓	同	芳中惣平
一仝一圓	同元神廟	松原正雄
一仝五十錢	同	松原小菊子
一仝一圓	同西北街	勝弘さく子
一仝五圓	同滿洲日報社	稻垣伸太郎
一仝五圓	同	藏內正太郎
一仝五圓	同	山田千秋
一仝五圓	同西北街	片山卯三郎
一仝一圓	同	片山進一郎
一仝五十錢	同高砂ホテル	松島虎太郎
一仝五圓	同	片山小光
一仝一圓	同	玉川幾太郎
一仝一圓	同	中川喜三郎
一仝一圓	同	原田はる
一仝一圓	同	矢野あさ
一仝一圓	同	三島まさの
一仝一圓	同	山本しげ
一仝一圓	同	村上かめ
一仝一圓	仝	佐川ての
一仝五十錢	同	柏木小せい
一仝五十錢	同	井口いよ
一仝五十錢	同	高橋ふく
一仝五十錢	同	柴田くす
一仝五十錢	同	西川さかゑ
一仝五十錢	同	山崎きくの
一仝五十錢	同	榊本いちゑ
一仝五十錢	同	川端とめ
一仝五十錢	同	塚本くま
一仝五十錢	同	松塚ちかの

計金九十三圓
通計六百六十七圓四十錢也

元牛家屯酒保平岡組傭人 堀孝次郎 及本店員 宮原久太郎 は自今當組と何等の關係なし此段廣告仕候

平岡組

募集公告

當局電話交換手募集す志願の者は（日本人にして年齡十六歲より二十五歲まで視聽力完全身体健康なるもの）自筆履歷書携帶當局へ出願す可し

營口軍政署電話局

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL EGINNEER.

Plans and specifications made to order.

ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

一關內外蘆漢鉄道貨物運輸 但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續 但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱
一鈔關手續 但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶荷物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候

營口西北街第二七二號
大清通運公司
營口支店

營口永世街
營口印字局

◎フレノロジー
頭腦を觀察して身の上はんだんをなす
營口臺濟門街廿三號李俊氏宅の西半町
利生堂

廣告

明治參拾八年十一月廿九日夜警の件に付き協議を要すへき事あるを以て日淸兩國人よりの委員全部と淸國營口公議會員二名とを第一派遣所內に招き協議せしめたり

最も夜警を設置したるは明治參拾八年十一月下旬にして日淸兩國人の委員として夫れ〴〵軍政署より指名せられ其委員に於て總て其事務を擔任し來りたるも日淸兩國委員間に於て是迄意思の疏通せさる爲めと側ら協議を要すべき點とにて本日特に全部召集會見協議せしめたるものなり當日日本人側より谷口今朝太郎、村山彌吉、永島貫二の三氏出席他の三名委員は旅行中又は用務の爲め欠席せられ淸國人よりは全部出席せられたり協議したる件は左に

一是迄の夜警は人員不足にして未た充分に第一派遣所管內を巡視する不能依て一月一日より更に八名を增加せしめ（當時十二名）一層當派遣所管內の各衚を嚴密に巡視せしむると

一八人の增加と共に其費用も倍〻增加するか故是迄日本人側より其全部費用の三分の一を負擔することゝなりをりしも（約一ヶ月百五十圓の見込なりし）一月以降は日本人側より每月百五十圓を支出し他は淸國人より支出負擔すると

但し二十人の夜巡夫は一ヶ月一人十五圓づゝにして二十人にて三百圓當地家賃油炭其他雜費等約五十圓其他柏子木角燈修理代等にて合計三百五十圓

一總て夜警に要する物品は公議會より支辨すると

一日本人側より支出する金額は其月廿五日迄に取纒め第一派遣所憲兵の手を經て公議會に交付すると

一夜巡夫の監督は軍政署に於て監督せらる

一夜巡夫に於て巡視中火災盜賊其他安寧を害する事あるを發見し特に功勞あるものは日本人側より賞與すると

右の通り第一派遣所受持憲兵井元勇馬氏立會の上決議仕候條此段及報告候也

十一月十二日決算報告

一銀二百七十五圓五十錢也　徵收高

內譯

銀七十五圓二十錢也　十一月分夜警巡夫費
一銀百五十圓也　十二月分夜警巡夫費
一銀四十六圓三十錢也　帳簿幷に廣告料及び事務員給料其外雜費

差引殘金十八圓也

右之通報告に及び候也

營口第一派遣所管內
夜警委員

御料理　滿月
平野町一八二（電話一六二）

御料理　滿月支店
平野町（元都樓跡）

今般內地より撰り拔きの別嬪數名呼寄候に付不相變御引立の程希上候

店主　青木勝惠

Yano & Co.
矢野洋行
Telephone No. 137 電話一三七

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

石材、碎石
瓦、煉瓦
並ニ自家製造 廉價販賣

營口元神廟街四十號第二號

順吉洋行

滿洲大販賣所

營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店ヘ御來店アリタシ

遼陽停車場前
池上出張店

奉天
池上出張店

風薬

上咳 祛痰散

哮喘氣急、多痰咯血、咳嗽痰稠、各種喉症、胃痛胸痛、晝至庫臥不安、飲食不進、或請醫束手百藥罔效服用此散不論初起遠年立刻見效眞水火既濟之良方也

◎たんせき一切
◎肺病の特薬
◎ひきかぜ

醫藥醫料器械
賣藥寫眞藥

營口永世街(西順泰東首)
大阪實東瀛大藥房

澤亀を醇良にして風味高尚

並ニ札幌ビール
朝日ビール
政府專賣口付紙卷莨
朝日
大和
酢
醬油 瓶詰樽詰
菓子
鑵詰色々
洋酒類 取次販賣

釀造發賣元
大阪府堺市九間町
北海道小樽湊町
臺灣臺北街書院
臺灣基隆街石牌
臺灣臺南街下南河
北海道函館區辨天町
清國遼陽城內西街
清國大連監部
清國牛莊港東營口

合名會社宅
本店
小樽支店
臺北支店
基隆支店
臺南支店
函館出張店
遼陽出張店
大連出張店
營口支店

東營口郵便局東隣
島田洋服店
新民屯停車場前
同支店

會席料理
營口警務課前南に入る
三日月

奉天日本旅館
瀋陽館
家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開業
奉天小西門外大街路北
全時ニ開放

SPECIAL LIGHT
(PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を醸造せり
スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり
スペシャルライト、は其味輕くして高尚なり

釀造元 大阪朝日麥酒株式會社
營口發賣 關東公司雜貨部

標子
木板
料本
發賣

營口青堆子
清水洋木店

歐米各國最新流行形
西海洋服店
永世街一四一(森病院三軒目)
(電話百十七號)

譲り渡し

弊樓現在の家屋疊建具付の儘讓渡し度候に付御望みの御方は至急御來談被成下度候

二月四日
平野町
春帆樓

萬事勉强乘車乘船好位置
營口中央市場前
旅館 東京樓
店主 熊田兼次郎
(電話百七十八番)

西洋料理仕出し御需應にず
即席和洋料理 東京樓支店
(電話四十四番)

景品御料理御披露

私儀夫月中原料並に道具仕込みの爲め歸朝致し居ましたが此程種々の珍品を仕込みて立歸りましたを幸ひ平常の御引立に酬ひ度と思いますので此際更に大勉强をしまして從來の御料理を吟味します外新に左記の價額にて釜飯湯豆腐の二品を加へ籤引景品を差上ます

新御料理

加藥飯	御壹人前	銀五拾錢
親子飯	仝	上
湯豆腐	一鍋壹	銀貳拾五錢

但釜飯は加藥親子何れでも御二人前以下は御調進出來ませぬ景品は御酒肴代(銀貳圓)に對し一枚の割にて景品券にて差上げ置き今回の總券數二千枚を出し盡しました時に有志の御方々の御立會ひを乞ひまして籤引致し景品券を引換へに差記の景品を進せます何卒陸續御入來之程を偏に希ひます

景品目錄

第壹等		銘酒澤龜	七樽
第貳等		仝	三樽
第參等		五匁附純金指環	壹個
第四等	二本	銀側懷中時計 (代價二拾圓)	壹個宛
第五等	三本	旅行用皮製カバン (仝拾五圓)	壹個宛
第六等	四本	旅行用化粧道具 (仝拾圓)	壹個宛
第七等	五本	膝掛け (仝八圓)	壹枚宛
第八等	六本	絹紬 (仝六圓)	壹反宛
第九等	七本	メリヤスシャツ (仝五圓)上下	壹組宛
第十等	八本	卷烟草入 (仝貳圓)	壹個宛

明治三十九年二月十日より

元神廟街
翁亭
長谷川金次郎

軍隊用雜貨
日用品雜貨
呉服太物類
化粧品類
陶器類
食料品類
卸小賣

其外新荷着精々安價販賣

營口永世街七十號(第二市場東)
石原商店

官製口付莨、文房具
和洋酒類
鑵詰、菓子
藥品、雜貨
醬油瓶樽詰
防寒具、安價販賣
白米
卸商

營口西北街
豊生洋行
(電話十三番)

開行時刻

	上	下
山海關至唐山	一二、一八	六、二〇
山海關至天津	五、〇〇	五、五五
唐山至天津	六、〇〇	上一一、二八
塘沽至北京	六、一二	一二、〇六
天津至北京	一二、〇〇	五、二〇
山海關至北京	八、〇〇	六、四五
北京至塘沽	一二、四〇	[illegible]
天津至唐山	一一、四二	五、一七
天津至山海關	六、二五	六、二一
唐山至山海關	六、〇〇	上一一、五八
山海關至營口	七、〇五	四、五五
溝邦子至新民屯	三、〇〇	六、五七

大連旅順間下り列車

驛名	發着時刻
大連	發午前 七、三〇
旅順	着 一〇、四九

營口大石橋間

大石橋	發午前 一、〇〇
營口	着 一、五五

上り列車

營口	發午後 十〇、二五
大石橋	着翌前 一二、二〇

宮門抄

十五日
敬中堂專摺謝賞元宵　恩
召見軍機
十六日
黃伯假滿請　安　榮公富侯後黃寺總經覆　命　阿王文泰各續假五日
召見軍機
皇上明日午正升　紫光閣入廷臣宴

上諭恭錄

十六日奉
上諭陸元鼎奏禮部右侍郎朱祖謀假期屆滿病仍未痊懇請開缺據情代奏一摺朱祖謀着准其開缺欽此

論說

論立憲當以開國會為基礎

開昔取泰西政治家之著作而讀之。萬國政體。起原宗法。轉綠迴黃。迭生進化。於是有族制政體焉。有酋長政體焉。有貴族政體焉。有君主政體焉。有民主政體焉。有君民共主政體焉。就世界現狀徵之。自十九世紀以來。凡所謂君主一人之專制政體。已如風擣籜捲。土崩雲拆。匿跡銷聲於大陸。而所謂民主多數之共和政體。外觀雖覺光華。內部仍多缺點。然則今日最適生物進化自然淘汰之公例。而張其文明旗鼓。以與他族相馳騁相競爭於九萬里周徑之大舞臺。而政治界。而天演界。皆有其國旗之飄展焉。其惟立憲乎。其惟立憲乎。夫立憲政體之所以良者。民之親君。歡若父母。君之愛民。芬若椒蘭。故集合皇室貴族平民。而成一團體之法人。以共組織一完全政治。無專制共和之流弊。而同受保護於法律之下。是為法治國。中國當二十世紀民族帝國侵略最烈之世界。而又為東西兩洋橫風逆浪所衝激之盤渦。耳鼓所觸者。無非瓜分之說。目簾所接者。大都鐵血之慘。神州陸沈。衣冠塗炭。人種興亡。危如一髮之繫千鈞。古人所謂痛哭流涕。此其時矣。其或泄泄沓沓。睡獅如故。任夕陽之西下。聽流水之東馳乎。抑或速定方針。改行政策。綢繆於未雨之先。勿滋他族。窺逼處此乎。今而輿論所播。立憲之請。萬喙同聲。朝廷所行政策。近如會議內外建革大端。考求各國政治。亦似有採用立憲之意。一線曙光。發於東亞。此非我國民所禱祝歡迎擊香尸祝。不惜犧牲一切以求之者耶。雖然。變法以立憲為基礎。而立憲又不能無其基礎也。世界有憲法。胚胎於英。萌蘖於美。枝幹於法。迄今而條達蕃茂於全球。觀其組織之際。未有不與國會相維持者。條頓民族。自戰勝羅馬。始入英吉利。而行立憲。為世界各國所取法。彼羅馬之弱。實以其民無代表之資格故耳。條頓民族。知其弊而力圖振作。平他文藝佈勒。始定地方自治之制。然在羅馬各國。亦欲行立憲。而終無成效。以故歐州各國。不敢再欲立憲。惟英特條頓民族之國。早有立憲性質。存於其間。遂能化野蠻而為文明。然曰國會政事。導源希臘。而條頓民族之自村團法制。進而為百家團會議。又進而為庶民會議。賢人會議。至於西蠻會議。模範會議。漸次發達。即立憲政体。漸次鞏固。君民一體。上下皆受治于所立之憲章。是立憲與國會相維持之確證也。繼英而起者為美國。取英之制度模倣而變通之。及憲法成立。於是法班葡荷比德義奧。接踵步武。相繼仿行。而東亞之日本立憲國。又出現焉。方明治初紀。危殆與中國同。雖天皇力圖振作。有萬幾中於公論之詔。而政府因循敷衍。口唱公議輿論。而未嘗本此議以立制度。年復一年。専事粉飾。人心渙散。時勢逾迫。至明治七年。小室君等自歐州遊學歸。乃呈請設議院建白書。幾經政府酌議。卒不能易此理。遂於明治八年先開元老大審二院。十二年開地方議會。十四年宣布立憲之旨。俾國民自重其品格。以求為十年後之立憲國民。故日本之法制可分四期焉。第一期（自明治二年至十四年）取法於法。故其刑法民法刑事訴訟法。皆由法人起草。第二期取法英德。（自十四年至二十二年）第三期取法於德。（自二十三年至三十年）第四期（自三十年以至今日）則又主張國粹。由歐化而化歐。以成為日本獨有之治法。不如是不足以發其獨立之精神。而卓然有以自立也。嗚呼。歐洲立憲之政體。成於法國之大革命。而為之母者。英美也。亞洲立憲之政體。開於日本維新三十年。而為之母者。又法國也。中國立憲之政體。倡於朝野之均欲達其目的。而為之母者。又日本也。雖然法日本。尤宜兼法歐美。更宜取中國之成法。參以世界之憲法。而以開國會為基礎焉。至若預定年限。則仿日本之先期示知可也。開通民智則如英之派員於各都會。就商與利除弊之條件可也。迨百姓之能力足。而後國家以百姓之能力。為國家之能力。乃可為完全之憲法。而非形式之憲法。乃可為心中之憲法。而非為紙上之憲法。

北京電報

●各國撤兵之預議　日昨駐京各國欽使對於北清撤兵問題會同協議未及終局散會然據外邊傳說除北京天津外其他地方可一律撤退云（西二月十二日到）

東京電報

●澤公等赴美之期　日前往遊日本之出洋大臣載澤公等刻已考察該國政治情形定於西二月十四日由橫濱埠出帆前往美國云（西二月十一日到）

中外要聞

●德使干預練兵事宜　德國欽差至外部會晤問詢蒙古練兵事宜並謂中國練兵若用日本操反起俄人嫌疑中國若練德國操俄人不致生疑且中德聯合俄人決不能小視中國云云當經外部堂憲答以此練兵事宜本部不便干預貴大臣應與練兵大臣計議云

●美使承認助欵　美國公使至外部與那堂會晤謂中國開放蒙地應用欵項浩繁中國以無欵遲遲不辦恐他國乘勢又生枝節中國若願與美國合辦美國能出鉅欵與中國開辦云云外部大臣甚為稱謝並云此須俟慶親王病愈到部再與貴公使商議云

●綠營添練槍炮之消息　綠營添練槍炮雖有是說並未實行昨練兵處咨步軍統領查點綠營將官兵丁老弱者先行裁撤精壯者調入警務學堂訓練限以半年練成再入營當差等語步軍統領衙門尚未咨覆

●嚴保邊界　探聞政府日前有電致新疆伊犁各等處將軍巡撫衙門現該地面恐有土匪勾結外人滋擾即宜厚集兵力嚴保邊界固守中立切不可不預為准備也

●密查私賭　聞巡警部徐菊仁尚書會商二侍郎已於去歲臘月二十六日諭飭各委員亟宜嚴密訪查官場手談各等牌賭及各處賭博一律禁止等語詞意極形嚴厲云云

●戶部歸併各司　聞戶部堂官會商擬將各司歸併司員襄辦案件查各司官有文理兼優者奉堂諭點派總核繕寫校閱烏布各名目其掌印主稿服查之職其有差使懈怠者應咨政務處擬議該員升途章程量為變通以免遲滯

●力除嗜好　吏部署內原有承發科公所由裁吏之後已改設收發處茲有該部某堂訪聞收發處公所內設有烟燈烟具等項每日各司員聚集吸烟暢談各遂嗜好當經該堂票派司官暗查然果有前項情事立即參辦

●課吏館附入法政學堂　聞直隸設立課吏館業已改立政治洋務財賦河工諸門當經直督袁宮保將該館月課停止仍照法政學堂章程辦法並飭附入法政學堂之內即以課吏館獎賞作為經費云

●改良虧空辦法　聞政務處王大臣擬定各省凡地方官有虧空參劾之後一面於任所嚴追一面移咨旗籍查其房地產業令該管官照額徵租收貯公庫于歲底造册報部查核俟該撥咨覆到日查該員欠項不充或完不足數即將房地產業及所收之租一併抵補如欠項已完及將入官房產收過租銀照數給還云云

雜報

●翻譯通滿章京之考試　聞翰林院呈遞封奏一件略謂軍機處滿章京科甲出身皆文理兼優其滿章京或僅通清文或清文不通良由考試以致徇情鎗替于本屆考試之期應請變通章程以重要差而免弊端云云

●馬賊猖獗　聞錦州西紅羅縣地方有巨盜阮老五者糾聚馬賊百餘騎屢於該縣四境肆虐官兵每往剿襲迭被賊等負嵎拒回云

●民賊莫辨　昨聞西來人云紅羅縣地方多山居民半雜賊盜遇有官兵剿捕賊黨合群抗拒勝則奮猛逞威敗則蹈光晦跡曾有錦郡胡統領前往該處剿賊而賊僅百餘肆然相抗胡乃躬行攻擊經一晝夜次晨不聞聲响暗進偵探詎杳無一賊於是冥搜山村實皆農戶俱稱賊等已向西北遁矣胡慮賊等暗有伏戎未肯率除勇追遂振旅旋回云

●邊車絡繹擁進　近日本埠由東北邊外所來載車絡繹擁進較客冬所來邊車更形繁盛凡車店院內比比排轅幾無插腳之隙云

●邊車盛行販鹽　近年以來北地鹹鹽十分匱缺客歲春夏秋際價昂常年二十餘倍是故所來邊車回運等載概皆販運前昨二日聞二道溝南北沿海諸灘共裝塩車不下千輛俱往邊外販運云

氣象報

北の風晴れ

昨日の氣溫
昨日の氣溫　最高溫度十六度三　最低溫度零下九渡八
昨年との比　高十六度三　高二十度二

NEWCHWANG, TUESDAY, FEB. 13, 1906.

The distress from famine of the north-western Japan—the three prefectures of Iwate, Miyagi, and Fukushima—has apparently reached the acutest stage yet known. What little the farm-field yielded has been in most cases consumed. The farming masses have little or nothing left to subsist upon. The working of local autonomic organizations—in the villages first and later in the towns also with a few exceptions—is reported to have come to a standstill or either to a paralized state. The education of chilpren in primary schools is growing into a luxury of the wealthier classes. The suffering multitudes, forced out upon charity, stand face to face with starvation. How the men are making shift to keep body and soul together, not only for themselves but also for others who depend upon them for support, during the frigid winter, with more than 8 long months still to wait, before reaping next harvest, remains, to an outsider who may care to give thought to it, a matter of the most painful conjecture. Yet, those north-eastern people are remarkable for their fortitude and self-restraint. They will suffer in silence and are the last to raise a cry for help. It is to be safely inferred that the prevailing conditions of misery are very much worse than yet described by Tokyo papers. This would seem to appeal all the more strongly to men's sympathy.

The Prefectual Governors, co-jointly with the houses of old feudal-lords of the distressed districts and the members of the Diet directly concerned in those localities, have been exerting themselves most energetically to apply the needed relief. With this object in view, they have organized the Association for the Relief of the Three Prefectures. The burden of all taxations is, to begin with, on the fair way of being, either wholly or in part, exempted. The residue of the Army supplies in Manchuria promises to be sold at a low price for the worthy purpose. Prefectural loans will be floated in the other parts of the Empire. Newspapers all the country over have started one or another movement for contributing to the same end. T.I.Ms. the Emperor and the Empress have graciously bestowed 50,000 yen on the afflicted prefectures. The open-hearted Australians were the first to offer a handsome sum of money for relief, abroad. The generous London followed next with another liberal purse. For their sympathetic succor, the nation, as a whole, tenders a grateful acknowledgment.

The soldiers from those stricken sections are the most stalwart, obedient, and courageous, in fact the best material for the field. They formed the very backbone of the 1st. Army. All the attaches and correspondents with Gen. Kuroki were as loud as sincere in admiring in a voice their marvelous sustaining power and grit. Gen. Sir Ian Hamilton has compared them favourably with the warlike Ghourkas. It was they also that bore the brunt of Gen. Stalkerberg's determined sally on Heikaotai (黑溝台) late in January last year, and, in danger of a total annihilation, did hold their own against terrible odds. Reduced to a handful remnant, they yet unflinching stuck to their post and so saved the once perilous situation which might have developed very disastrously to the issue of the war. Naturally they have sustained the heaviest quota of casualties. What must be the fate of their widows and orphans now. How could the disbanded heroes, crippled for life or, in a small proportion, spared unhurt, support their neglected charges merely on the effulgent honour of distinguished services? The Army authorities have early taken cognizance of their gloomy prospect and evolved plans for retaining as many as possible of them in some more lucrative employment in Manchuria and Korea.

The "Manchuria Daily Report" has under taken to do its meagre share in the general relief movement. It opened a voluntary subscription on the following terms, on the 7th. inst. (1). Contributions, more than 10 sen in sum, are accepted. (2). The subscription will close on Feb. 28th. next. (3). The money is requested to be sent directly to the "M.D.R." Office. (4). The sum of money so realized each day, is deposited with the Newchwang Branch of the Yokohama Specie Bank. (5). After the subscription has closed, the aggregate amount will be forwarded for distribution to the Association for the Relief of the Three Prefectures. (6). The names of contributors and the sums so contributed will be published in the advertizement columns of the "M.D.R.," for formal acknowledgment of receipt.

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館 第二營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程

料理 沖の島 永世街百六十五號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館 竹村館 永世街二十二號（電話五一）店主 麻田久二

旅館 大和館 永世街十一號 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

御料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

料理 醉花園 旅館 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

旅館 金城ホテル 永世街百六十六號

料理 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

料理 喜樂亭 營口元神廟街

營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街

さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

和洋御料理 第二東京館 元神廟街 東京一流 かき飯 店主 松田平四郎

御料理 柳亭 叮嚀專一 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理 一力 並ニ溫泉 營口永世街 店主 堀万助

和洋料理 松月亭 本店 營口元神廟街一四三号

和洋料理 御旅館 滿洲ホテル 支店 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業 日營ホテル支店 主任 井上源吉

御料理會席 菊水館 主任 朝枝園搥

旅館西洋料理 遼陽館 主任 永瀨宇吉

旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 凱旋亭 色々應御注文 主任 古谷庄太郎

旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席御料理 玉家 主任 西野治三郎

爲替相場（二月十三日）

上海は 百圓に付六十七兩二錢五分

天津向は 百圓に付一百〇八五圓五十錢

芝罘は 天津と同直段

油豆行情（中歴正月十九日）

集市元豆六吊百至六三吊二百

紅糧價錢五吊四百文至五吊

日本品最近物價表 加藤洋行調査

樽物類 菊正宗	三斗九舛入	銀二十圓
麒麟正宗	四斗四舛入	同十七圓
菊正宗	瓶詰四打	同十五圓
全 醬	三斗四舛	同十一圓
全 伊	九舛入	同五圓
鮪ラツキヨ	四打入	同十三圓
辛子漬	五打	同十四圓五十錢
フキ	四打	同九圓五十錢
榮螺	全	同八圓
鰻	全	
昆布卷	八打	
全	全	
鷲ミルク	全	同十八圓

石炭（飯塚工程局）

上等塊炭	一噸ニ付	銀十八圓
仝切込	仝	十七圓五十錢
仝粉炭	仝	十五圓五十錢

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.
$4.80 per 6 months.

本紙定價 一枚ニ付 銀四仙 / 一ヶ月前金 銀八十仙 / 半ヶ年前金 四弗八十仙 / 一ヶ年前金 銀九弗六十仙
廣告 二十一字詰一行一回 銀二十仙

消火器

右今般新荷着仕候間可成至急御申込願上候

英治洋行 營口西北街

諸鐵工製作

鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般

營口綏定門街ブツシ商會東

喜川鐵工場

御料理會席 來々亭 主任 石田清

發賣 料木 標字 木板

清國營口二本町二五五號

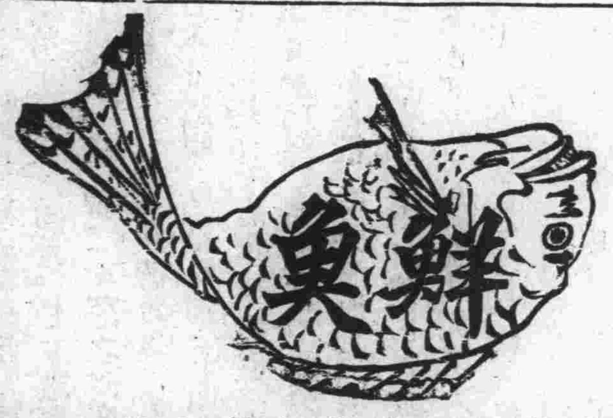
塩川商會

主任 鹽川峰吉（電話一三六番）

遼陽小西門内 鹽川商會

外に電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本●建築用材北海道產松大角（自廿五尺至三十尺）一万立方尺餘

右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也



弊店儀雜貨專業之處今般業務擴張の上日本は勿論滿洲に支店を設け併て鮮魚の御小賣充分勉强の上御用達可申候間倍舊の御用命被仰付度奉願上候 敬具

營口南永世街百廿七號

森屋洋行

大連大山通り二丁目 仝支店

遼陽西門外 代理店 林洋行

奉天小西門外（電話十六番）代理店 米田洋行

御旅館 天津 芙蓉館 駐屯軍御用 並西洋料理（電話四十一番）

北京 扶桑旅館 東單牌樓大街路西 客室清潔料理鮮新

御旅館 豐陽館 上海（電話一〇六番）

日本郵船會社荷客取扱 歐米滊船乘船取扱 館主 米田藤吉

高等旅館 彌生館 營口永世街 館主 宮下只七郎（電四二）

和洋會席 御料理

一 弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候

二 奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候

營口永世街二本町 日本館本店（電話百三十番）

奉天小西門外大十字街北入橋町 日本館支店（電話十九番）

各位樣

旅館 富喜樓

室内は極清潔防寒之設備あり 鐵嶺驛へ滊車到着毎に日本人の案内者出張致し居候

鐵嶺城東門外南へ一丁余 南大街 樓主敬白

藝妓仲居 新來御披露

此度新たに内地より藝妓仲居十數名を連れ來り候間御光來の上御評判の程願上候 草々

營口 高砂ホテル 高砂（電話一四五）

雜貨卸商

在元神廟營口街 關東公司雜貨部

雜貨 醬油 味噌 清酒

營口西北街 阪神組

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓
○上等日本米 一石に付 銀二十圓
○板材木 ○木炭
○亞鉛板 ○洋釘
○干擄魚 ○石灰

卸小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也

喜久洋行 永世街八十號（電話百五十二番）

大連 東洋ホテル

大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町